

令和8年度 学校経営方針

校長 中屋 珠美

Ⅰ 生徒、保護者の思いに寄り添いながら、共に生徒を主語に考えた教育活動を実践します。

中学生の時期は、心も身体も大人ではないが全くの子どもでもない状態(思春期初期)から始まり、次いで大人と子どもが入り交じりせめぎあう状態(思春期中期)、そして最後には、心も身体も大人であることを確かなものにしていく状態(思春期後期)の3つの段階に分けることができます。思春期は、身体の成長に心の成長が追いつかず、だれもが不安定な気分になりやすい時期です。「私は何者なのか?」「私はどう生きていきたいのか?」など自分自身について考え、自分を見る「もう一人の自分」が意識されるようになります。また、親や先生の言うことに対して、矛盾や不合理さを感じるようになります。「なぜ、勉強しなければならないの?」「大人だってウソつくくせに!」「親には関係ない!」と言って、無視する、訳もなく不機嫌になる、物に当たるといった行動につながることもできます。このことは、「自分は、もう子どもじゃない」「親の言いなりばかりにはならない」という、親から独立した存在になろうとしている表れです。しかし、社会的にはまだ一人前の大人として認められるわけではありません。社会で生きていくための規範意識や価値観、生活技術や経験値も低く、経済的にも一人で生きていけません。その為、大人でも子どもでもない、不安定な状況におかれることとなります。

三中では教育相談主任設置校事業(東京都教育委員会)を受け、校内委員会の充実を図り、学校生活に困り感を感じ、支援が必要な生徒や登校渋りや不登校生徒への支援や対応について、必要に応じて外部機関と連携しながら、全教職員で積極的に取り組んでいます。現在スクールカウンセラーは4名、相談室は週4日開室。校内支援室の運営も行っています。(入室要件あり)

青年前期の子どもの発達において、重視すべき課題(子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題)

文科省 子どもの徳育に関する懇談会 平成21年)より引用

青年前期(中学校)

- 中学生になるこの時期は、思春期に入り、親や友達と異なる自分独自の内面の世界があることに気づきはじめるとともに、自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索しはじめる時期である。また、大人との関係よりも、友人関係に自らへの強い意味を見いだす。さらに、親に対する反抗期を迎えたり、親子のコミュニケーションが不足しがちな時期でもあり、思春期特有の課題が現れる。また、仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られる。性意識が高まり、異性への興味関心も高まる時期でもある。
- 現在の我が国においては、生徒指導に関する問題行動などが表出しやすいのが、思春期を迎えるこの時期の特徴であり、また、不登校の子どもの割合が増加するなどの傾向や、さらには、青年期すべてに共通する引きこもりの増加といった傾向が見られる。
- これらを踏まえて、青年前期の子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。
 - 人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図るなど自己の在り方に関する思考
 - 社会の一員として自立した生活を営む力の育成
 - 法やきまりの意義の理解や公德心の自覚

2 体験学習・探究学習・生徒に寄り添う教育・地域貢献活動(防災教育・ボランティア活動)を重視し、生徒の『楽しい』や『わかった・できた・やりとげた』を実感できる教育を推進します。

1 体験学習・探究学習(テーマ 1年『学ぶ』2年『つながる』3年『未来に拓く』を軸として)

1年:校外学習(社会体験+探究学習による実地体験)

スキー教室(スキー体験、集団生活宿泊体験)

《講話》学校医のお話を聞く・他(大学連携授業訪問)など

2年:職場体験(職業体験+(社会体験))

校外学習(社会体験+探究学習による実地体験)

《講話》職業講話(ハローワークの方を講師として)・上級学校の話聞く会・その他

3年:修学旅行(社会体験+集団生活宿泊体験+探究学習による実地体験+α~防災教育)

救命救急(救命救急の方法について、消防署の方を招いて)

《講話》薬物乱用防止・がん教育

全学年:体育大会、合唱祭、性教育、安全教室、防災訓練、ボランティア活動など

※ 令和10年度から防災・共助のついて学べる訪問地に修学旅行先を変更します。

2 授業~社会や生徒などのニーズに合わせた授業

- ・ UD(ユニバーサルデザイン)化した環境整備と授業、探究学習、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な指導、誰一人取り残さない指導、教科横断的な学び等
- ・ 基礎学力の定着、やる気や学びに向かう力の育成(数学の少人数授業、放課後補習教室等)
- ・ タブレットを学習ツールとして活用した授業(双方向による活用、AI教材キュビナ等)
- ・ 道德教育の推進(ローテーション道德の実施)

3 生活指導

- ・ 後手の生活指導でなく、先手の生活指導(規範意識、社会性、道德観などの醸成)
- ・ 傾聴を基本とした指導
- ・ QU(学級満足度テスト)・授業アンケート・生徒アンケートなどの結果を分析し活用
- ・ 校内委員会の充実、ステップ教室、支援室、外部機関との連携(完全不登校を0に)
- ・ 生徒主体の活動を充実させ、自主自律、自治力の向上

4 部活動 その他

- ・ 部活動(地域運営移行中。部活動によって、合同チーム、拠点校、教育委員会主催等)

現在活動中の部活動

運動部 野球部 陸上競技部 女子ソフトテニス部 女子バレーボール部 卓球部 サッカー部
男女バスケットボール部

文化部 吹奏楽部 合唱部 美術部 ホームメイキング部 囲碁将棋部

- ・ CS(コミュニティスクール)として、ボランティア活動を含む地域との関わり
- ・ 保護者ボランティアや地域ボランティアと協力した行事等の運営
- ・ 公正・適正な評価評定(評価の透明性、シラバスによる授業管理など)